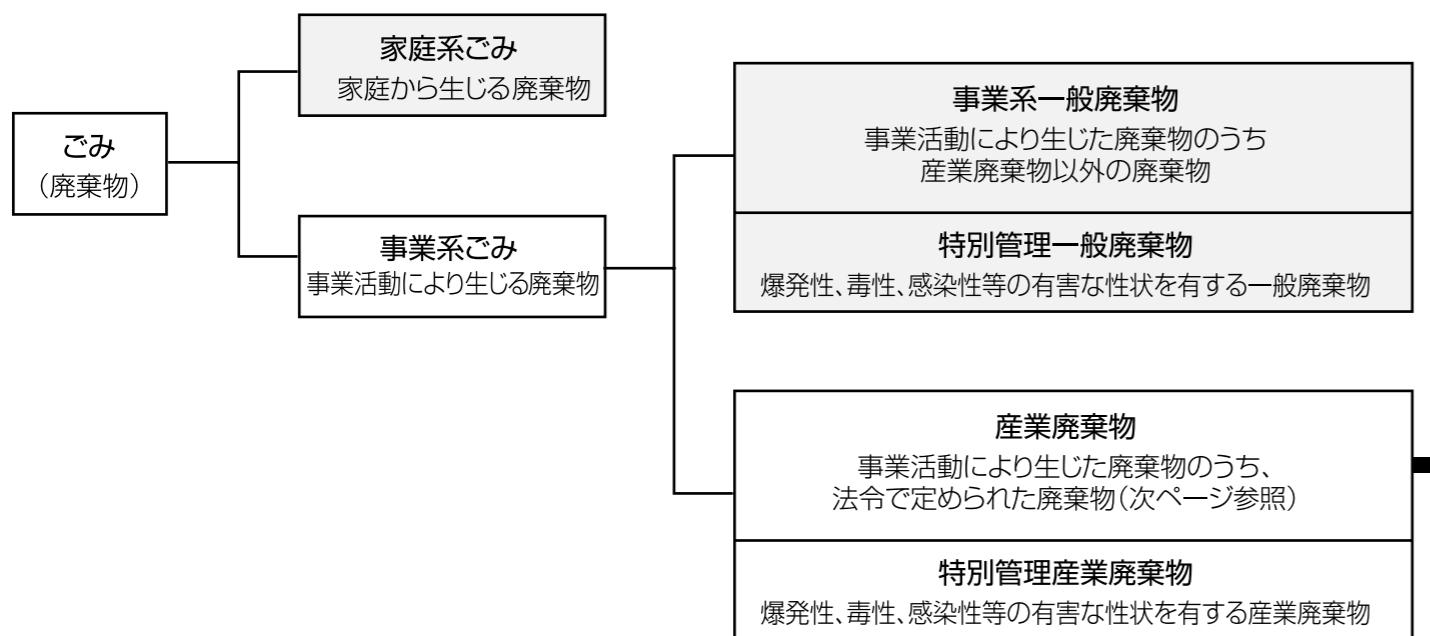


(産業廃棄物の種類)

1 廃棄物の分類と事業者の責任

(1) 廃棄物の分類

ごみには家庭から生じる家庭系ごみと事業活動により生じる事業系ごみがあり、事業系ごみには、事業系一般廃棄物と産業廃棄物があります。



(2) 事業者の責任

☆事業者は、その事業活動に伴って生じた廃棄物を、自らの責任において適正に処理しなければなりません。(廃棄物の処理及び清掃に関する法律 第3条第1項)

- ・事業系廃棄物は、事業系一般廃棄物と産業廃棄物に区分したうえ各々を適正に処理しなければなりません。
- ・事業系一般廃棄物の処理を委託する収集・運搬業者については、大阪市長の許可を受けた業者に委託しなければなりません。
- ・産業廃棄物の処理を委託する収集・運搬業者については、大阪市長や都道府県知事等の許可を受けた業者に委託しなければなりません。

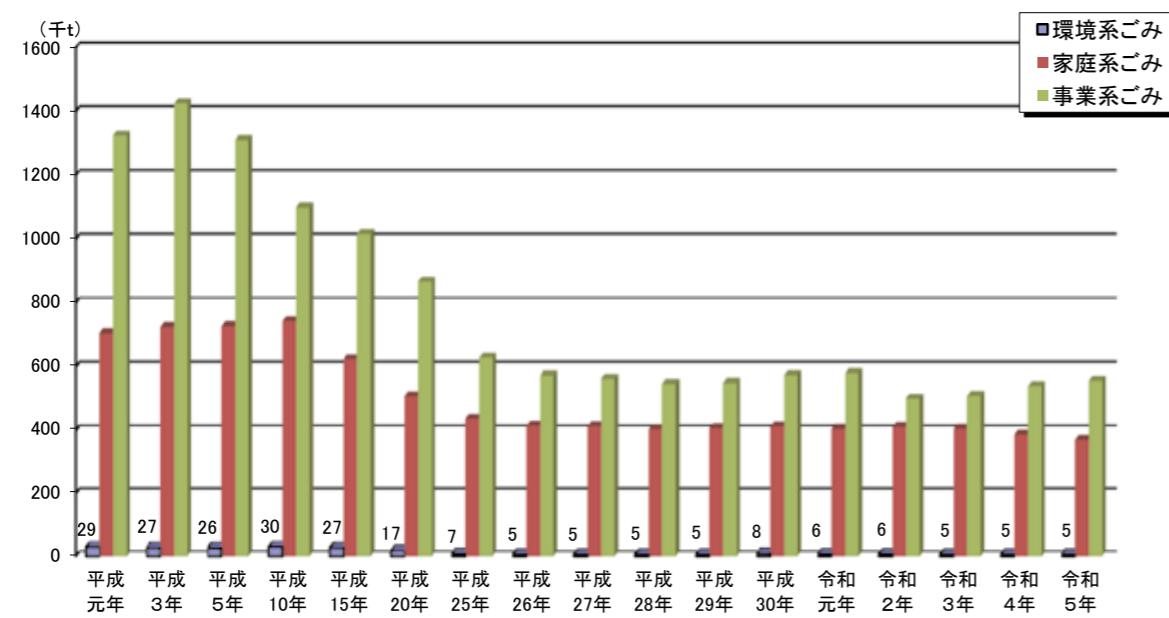
☆事業系一般廃棄物・産業廃棄物の処理に関するお問い合わせは、47ページをご参照願います。

☆事業者の責務については、第3章「事業系ごみの減量推進と適正処理の促進」(7ページ)をご参考願います。

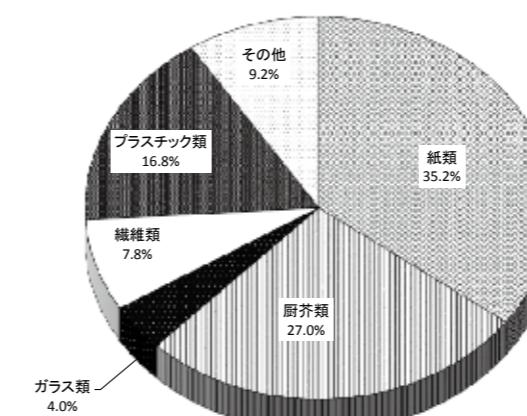
種類		例
全ての事業活動に伴うもの	1 燃え殻	産業廃棄物焼却炉の残灰、炉清掃排出物、石炭がら、その他の焼却残渣
	2 汚泥	工場排水などの処理後に残る泥状のもの、各種製造業の製造工程で出る泥状のもの、活性汚泥法による余剰汚泥、ビルピット汚泥(し尿を含むものを除く)、パルプ廃液汚泥、動植物性原料使用工程の排水処理汚泥、生コン残渣、炭酸カルシウムかす、排水溝清掃汚泥など 注)油分をおおむね5%以上含むものは廃油との混合物になる
	3 廃油	鉱物性油、動植物性油脂、潤滑油、絶縁油、洗浄用油、切削油、溶剤、タールピッチなど
	4 廃酸	廃硫酸、廃塩酸、各種の有機廃酸類、写真定着廃液など、すべての酸性廃液
	5 廃アルカリ	廃ソーダ液、金属せっけん液、写真現像廃液など、すべてのアルカリ性廃液
	6 廃プラスチック類	合成樹脂くず、合成繊維くず、合成ゴムくず、廃タイヤ、廃ペットボトルなど固形状及び液状の全ての合成高分子系化合物
	7 ゴムくず	天然ゴムくず
	8 金属くず	鉄鋼又は非鉄金属の研磨くず、切削くず、空き缶など
	9 ガラスくず コンクリートくず 陶磁器くず	ガラスくず、コンクリートくず(本表11に掲げるものを除く)、耐火レンガくず、陶磁器くず、空き瓶、石膏ボードなど
	10 鉱さい	高炉、転炉、電気炉などの残さ、キューポラのノロ、ボタ、鉄物砂、不良鉱石、不良石炭、粉炭かす、サンドblast廃砂など
	11 がれき類	工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたコンクリートの破片、レンガの破片、その他これに類する不要物など
	12 ばいじん	大気汚染防止法に規定するばい煙発生施設、ダイオキシン類対策特別措置法に基づく特定施設又は産業廃棄物の焼却施設において発生するばいじんであって、集じん施設によって集められたもの(乾式、湿式は問わず)
特定の事業活動に伴うもの	13 紙くず	以下の条件に当てはまる紙及び板紙くずなど 建設業に係るもの(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものに限る)、パルプ、紙又は紙加工品の製造業、新聞業(新聞巻取紙を使用して印刷発行を行うものに限る)、出版業(印刷出版を行うものに限る)、製本業及び印刷物加工業に係るもの並びにポリ塩化ビフェニル(PCB)が塗布され、又は染みこんだものに限る
	14 木くず	以下の条件に当てはまる木くず、おがくず、バーク類など 建設業に係るもの(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものに限る)、木材又は木製品の製造業(家具の製造業を含む)、パルプ製造業及び輸入木材の卸売業に係るもの、物品貿易業に係るもの及び貨物流通のために使用したパレット(パレットへの貨物の積付けのために使用した梱包用の木材を含む)並びにPCBが染みこんだものに限る
	15 繊維くず	以下の条件に当てはまる木綿くず、羊毛くずなどの天然繊維くず 建設業に係るもの(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものに限る)、繊維工業(衣服その他の繊維製品製造業を除く)に係るもの及びPCBが染みこんだものに限る
	16 動植物性残さ	以下の条件に当てはまるあめかす、のりかす、醸造かす、醸酵かす、魚及び獸のあら等 食料品製造業、飲料・飼料・有機質肥料製造業、医薬品製造業又は香料製造業において原料として使用した動物又は植物に係る固形状の不要物
	17 動物系固形不要物	と畜場においてとさつし、又は解体した獸畜及び食鳥処理場において食鳥処理した食鳥に係る固形状の不要物
	18 動物のふん尿 (家畜ふん尿)	以下の条件に当てはまる牛、馬、豚、めん羊、山羊、にわとり、あひる、がちょう、うずら、七めん鳥、うさぎ及び毛皮獸等のふん尿等(畜舎廃水を含む) (畜産農業に係るものに限る)
	19 動物の死体 (家畜の死体)	以下の条件に当てはまる本表18と同様の死体 (畜産農業に係るものに限る)
	20	本表1~19に掲げる産業廃棄物を処分するために処理したものであって、これらの産業廃棄物に該当しないもの (コンクリート固形化物など)

※下線については、業種を問わず全ての事業活動に伴うものが産業廃棄物となります。

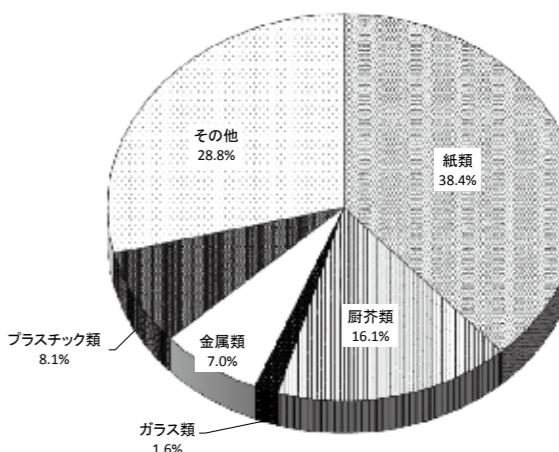
2 大阪市のごみ量の推移



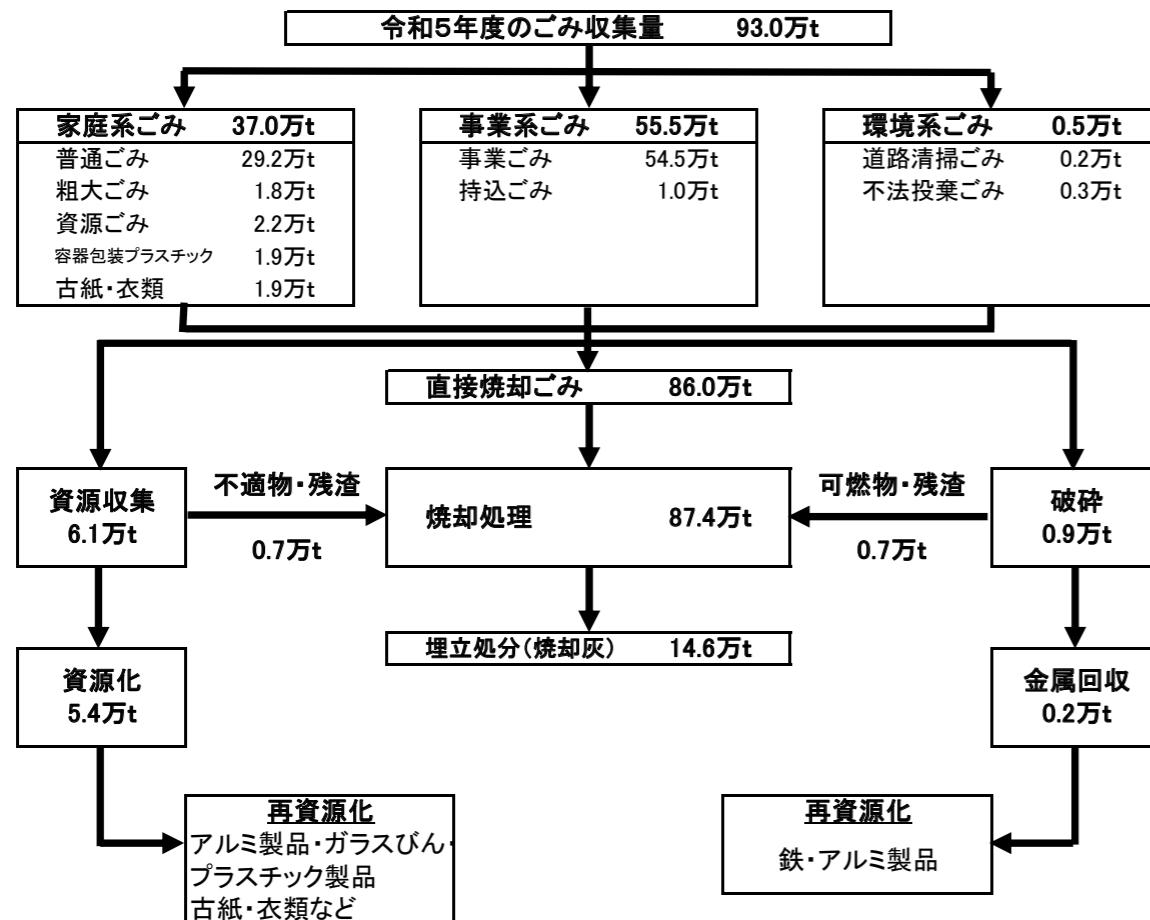
3 大阪市のごみの組成



家庭系ごみの組成(%)
(令和5年度家庭ごみ組成分析調査重量比より)

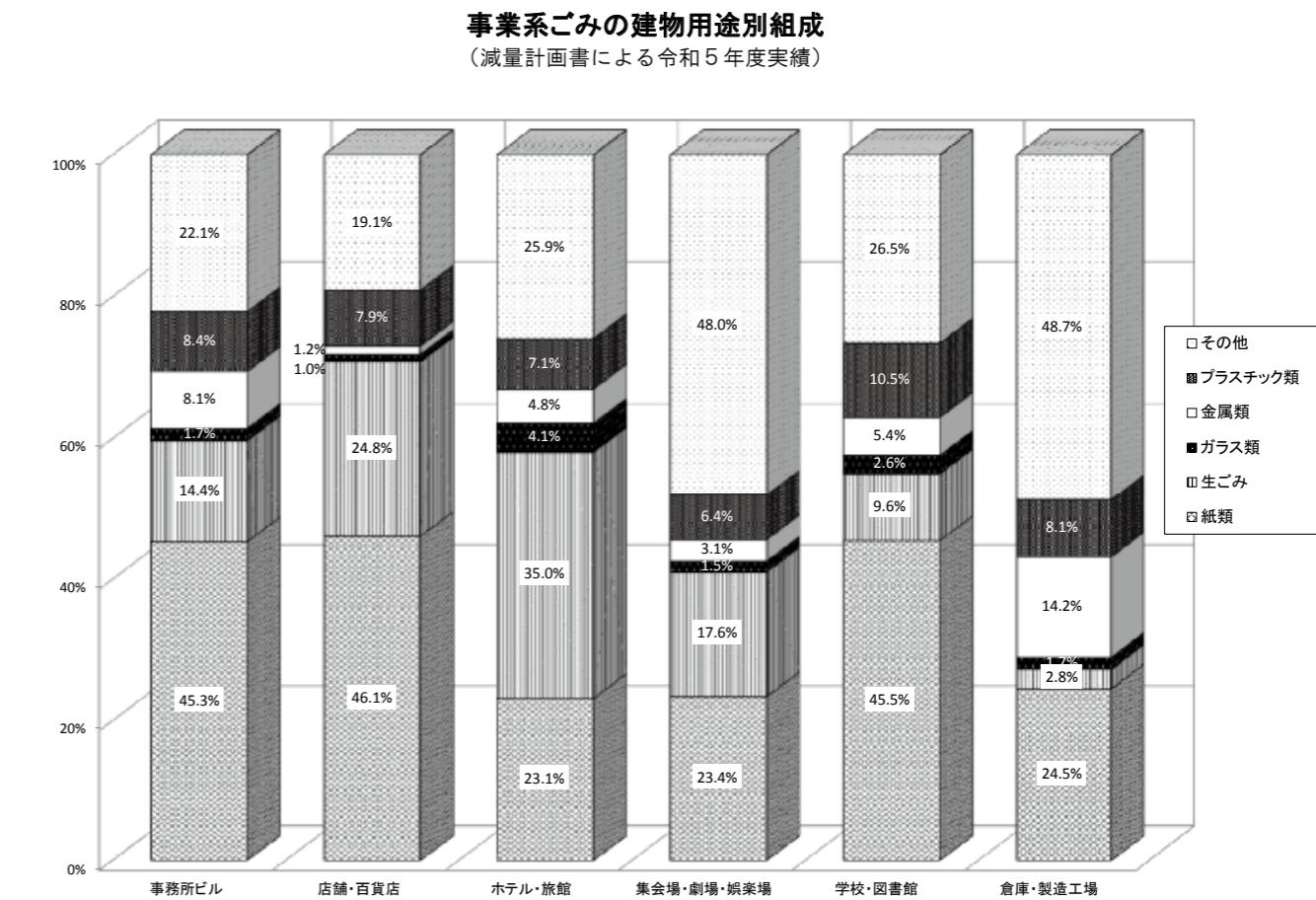


事業系ごみの組成(%)
(減量計画書による令和5年度実績)



(注) 「家庭系ごみ」:家庭から排出されるごみ
 「事業系ごみ」:事業活動に伴って排出されるごみ
 「環境系ごみ」:道路清掃などにより収集したごみ

※各数値は四捨五入しているため、合計があわない場合があります。

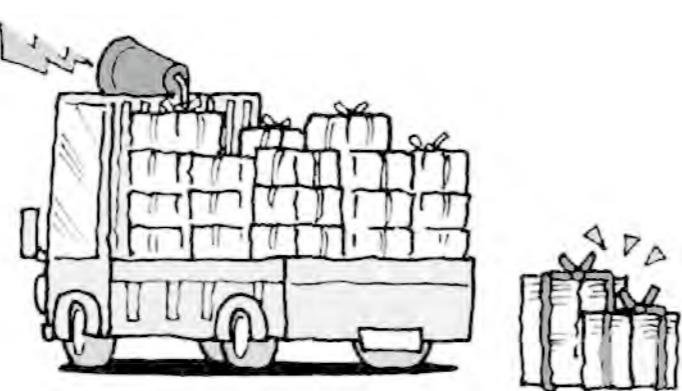


1 これまでのリサイクル

私たちはこれまで、新聞・雑誌・段ボール等の処理を資源回収業者の手に委ねてきました。これは、知らず知らずの間に身についた「無資源国日本」という意識と、昔からの「物を大切にする」「捨てたらもったいない」という意識に合わせ、回収に回すことによりいくばくかの代金や品物と交換してもらえるというメリットがあったからではないかと考えられます。

しかしながら、回収にお金を払わなければなくなる（逆有償）と、再資源化していたものの多くがすぐさま廃棄物になってしまいます。

廃棄物の増減は、生産活動や経済活動の影響を大きく受けると言われていますが、このように再生資源物の需給関係のバランスも重要な要素のひとつではないかと考えられます。



2 循環型社会の構築

私たちは、環境への負荷をできるだけ低減し、資源の有効活用や再利用を図り、古紙価格の動向などの現象面にとらわれることなく、再利用や再資源化の徹底した「循環型社会」をめざす必要があります。

そのためには、生産・流通・消費・再利用・廃棄等それぞれの過程において事業者・市民・行政がそれぞれの役割と責任を明確にしながら、豊かな自然環境や快適な生活空間を維持するという共通の目標を達成するため、持続可能な循環型社会の形成をめざした取組を積極的に推進していく必要があります。



3 いま取組むべきこと



オフィスからはいろいろな紙ごみが発生します。新聞・雑誌・ちらし・パンフレット・段ボール箱・コピー用紙・封筒などです。

これまで「ごみ箱に捨てられていた紙」に注目してください。コピーに失敗した紙、余分に作成した会議資料、回覧済みのちらしやメモに使った紙などです。

これまで、大阪市の焼却工場で処理される事業系ごみには多くの資源化可能な紙類が含まれていたため、大阪市では平成25年10月1日から資源化可能な紙類の焼却工場への搬入を禁止し、事業者のリサイクルに向けた取組を促進しています。



紙ごみを有効に再生利用するためには、発生したらすぐ分別することが不可欠です。そのためには、個人用の分別ボックスやフロア分別ボックスを利用すると便利です。また、社員になぜこのような取組をするのか説明し、納得してもらうことが大事です。

紙ごみは出さないよう
にしましょう

発 生 抑 制

出された紙ごみは再生
に回しましょう

古紙のリサイクル

再生紙を利用しましょう

再生紙の利用促進